

AEON



株主の皆さまへ

第45期 報告書

2017年3月1日～2018年2月28日

AEON delight 

イオンデイトライト株式会社

証券コード：9787

TOP MESSAGE

トップメッセージ

2018年2月期のご報告

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第45期(2017年3月1日~2018年2月28日)における業績と事業への取り組みにつきまして、以下ご説明いたします。



取締役会長

中山一平

■ 当社を取り巻く経営環境

当連結会計年度(2017年3月1日~2018年2月28日)、国内では、構造的な人手不足により労働需給の逼迫感が増し、業界によらず人的サービスの供給が難しくなる傾向が強まりました。また、長時間労働が社会的問題として顕在化する中、企業では働き方改革に向けた取り組みが活発化しました。当社が事業領域とするファシリティマネジメント(以下、FM)業界においても、人的コスト上昇への対応が求められ、効率化や自動化へのニーズが益々高まりました。

当社が事業を展開する中国やアセアン各国では、都市環境の変化に伴いファシリティの活性化や効率的な運用が課題となり、FMの需要が拡大を続けています。とりわけ、中国では、テクノロジーを活用した静脈認証や商品識別、データ分析等、日常生活の様々な場面でデジタル化が進展しています。

こうした中、当社では新規顧客の開拓に加えて、資産価値向上の観点から既存顧客への提案を強化しました。また、各事業で業務効率化に取り組むと共に、国内外でテクノロジーを活用したFMの省人化/無人化に向けた研究開発を進めました。

■ 顧客の拡大

国内では、新たにリゾート施設、商業施設、工場、オフィスビルへサービスの提供を開始しました。また、

前年度より当社がIFM^(※)を提供する大手製薬会社では、国内複数のファシリティに関する運営コストの削減を図ると共に契約業務を拡大しました。また、IFMのアジア展開を目的に2017年4月に開業した「永旺永楽(上海)企業管理有限公司」との日中連携により、中国に事業を展開する日系企業をターゲットとした営業活動を積極化しました。

中国では、重点ターゲットとする中高級施設への営業活動に注力し、大型商業施設をはじめ、病院施設、交通インフラ施設などへサービスの提供を拡大しました。加えて、エリア単位での受託拡大を図り、広域商業エリアにおける物件を集中的に受託したほか、都市開発エリアのランドマークとなるオフィスビルの総合管理を受託しました。マレーシアでは商業施設の清掃や資材の提供に加え、設備管理の提供を本格的に開始し、保守点検業務の受託を拡大しました。ベトナムでは営業体制の強化により、ハノイの在ベトナム日本国大使館や日系マンションなどの業務を受託すると共にサービスメニューの拡充や業務効率化、品質の向上に取り組みました。

なお、今後もマーケットの拡大が見込まれる中国・アセアン各国での成長を目指し、同エリアへ積極的に経営資源を振り向けてまいります。

※IFM(インテグレートド・ファシリティマネジメント)
ファシリティに関するアウトソーシングニーズを統合的に管理運営するサービス

■ 業績ハイライト

売上高

2,958億39百万円
(対前期比100.4%)

営業利益

168億12百万円
(対前期比97.4%)

経常利益

172億84百万円
(対前期比99.4%)

親会社株主に帰属する
当期純利益

103億16百万円
(対前期比100.8%)

■ 経営成績

当連結会計年度の業績は、売上高2,958億39百万円(対前期比100.4%)、営業利益168億12百万円(同97.4%)、経常利益172億84百万円(同99.4%)、親会社株主に帰属する当期純利益103億16百万円(同100.8%)となりました。

売上高、親会社株主に帰属する当期純利益は前年を上回ったものの、第3四半期以降、人的コスト上昇の影響もあり計画に対して売上高、売上総利益率が下回り、営業利益の差異が拡大しました。

■ 新たな体制で更なる飛躍へ

更なる成長に向けた経営体制の強化を目的に2018年5月18日の弊社 第45期定時株主総会の決議を持って、濱田和成が新たに代表取締役社長に就任しました。私(中山)は、取締役会長に就任し、引き続き、当社の経営に携わってまいります。

新たな経営体制のもと、中期経営計画(2017年度-2019年度)遂行に向けて、邁進してまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 **はまだ かずまさ**
濱田 和成

プロフィール

- 1964年12月30日生まれ。
- 1987年3月 ジャスコ(株)(現イオン(株))入社
- 2007年3月 (株)ポスフル(現イオン北海道(株))執行役員
- 2011年3月 イオンリテール(株)執行役員
- 2013年3月 イオン(株)執行役グループ経営管理責任者
- 2017年3月 イオンリテール(株)専務執行役員
- 2018年3月 イオンディライト(株)顧問
- 2018年5月 イオンディライト(株)代表取締役社長

ごあいさつ

このたび代表取締役社長に就任した濱田和成でございます。現在、イオンディライトは、日本発グローバルレベルのファシリティマネジメント(以下、FM)企業を目指し、「IFM」「アジア」「テクノロジー」の3つを基本方針とする中期経営計画を進行しています。

私の使命は、過去の成功体験にとらわれることなく成長軌道への歩みを確かなものにしていくことです。株主の皆さまにおかれましては引き続き、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

イオンディライトの魅力

ベンチャースピリット溢れる企業集団

私は同じイオングループの仲間としての立場、あるいは、取引先としての立場から、これまでもイオンディライトと接してきました。そのため、イオンディライト(以下、当社)という会社を知っているつもりでした。ところが、この3月より実際に入社してみて、想像していたよりも遥かにベンチャースピリットに溢れた会社だと分かり驚きました。

一例をあげれば、AI(人工知能)導入に向けた取り組みです。当社ではFMの省人化/無人化に向けていち早くAI技術に着目し、今現在の基幹業務の改革に向けた取り組みを進めています。成長速度を加速するため既に、デジタル化の進展著しい中国においてトップクラスのAI企業と協業する(詳細はp.07-p.08参照)など、オープンイノベーションの発想で外部とのアライアンスを積極的に行っています。イオングループの中で最もベンチャースピリットを持った会社ではないかと感じています。私自身、大きな可能性を秘めた当社の未来の期待感を募らせています。

「ベンチャースピリット」と「現場主義×テクノロジー」で更なる飛躍を目指す

更なる成長に向けて

現場主義を徹底し成長軌道へ

今期は中期経営計画(2017年度-2019年度)の2年目となります。初年度となった前期は、人手不足による影響が当初の想定を上回り、計画から遅れをとってしまいました。しかし、掲げる3つの基本方針「IFM」「アジア」「テクノロジー」の方向性は決して間違っていないと考えています。

当社では、労働人口の減少や高齢化といった環境変化を踏まえ、あらためて自らの存在意義を問い直し、「人手不足という社会課題をFMの分野から解決していく」を中長期的なビジョンとして掲げました。「人手不足」は何も日本に限ったものではありません。高齢化に伴い中国においても既に深刻化しつつあるのです。FM企業として事業拡大の阻害要因をどこよりも早く解消することができれば、そこには大きなビジネスチャンスがあると考えています。日本が直面し、東アジアが内包する社会課題を解決し、企業としても大きな飛躍を図りたいと考えています。

そして、これらを実現するために必要なのが、AIやIoT、ロボティクスといった「テクノロジー」です。一方で、単にテクノロジーを導入すればよいということではありません。そこに「魂」が込められていなければ、決してお客さまからの支持を得られることはないでしょう。その「魂」とは、日々、お客さまと接する現場の声に他なりません。「お客さま第一」を掲げるイオングループの企業として、そのお客さまに最も近い現場の声に耳を傾け、確実な効率化、自動



化を実現していきます。「現場主義」の徹底とテクノロジーの活用により、FMの省人化/無人化を進めることで、競争優位性を高めていきます。

今後の経営ビジョン

「人手不足の解消」×「環境価値の創造」 =お客さまと社会から必要とされる会社に

「お客さま、地域社会の「環境価値」を創造し続ける」を経営理念とする当社にとって環境負荷低減も重要なテーマです。「人手不足の解消」に加え、この分野にも引き続き注力していきます。新たな取り組みとして、この4月より再生可能エネルギーの実証事業を開始しています(詳細はp.09参照)。




事業を通じて、共に社会課題である「人手不足の解消」と「環境負荷低減」を果たすことができれば、当社は持続的成長を果たし、自ずとお客さまや社会から必要とされる会社であり続けることができると考えています。

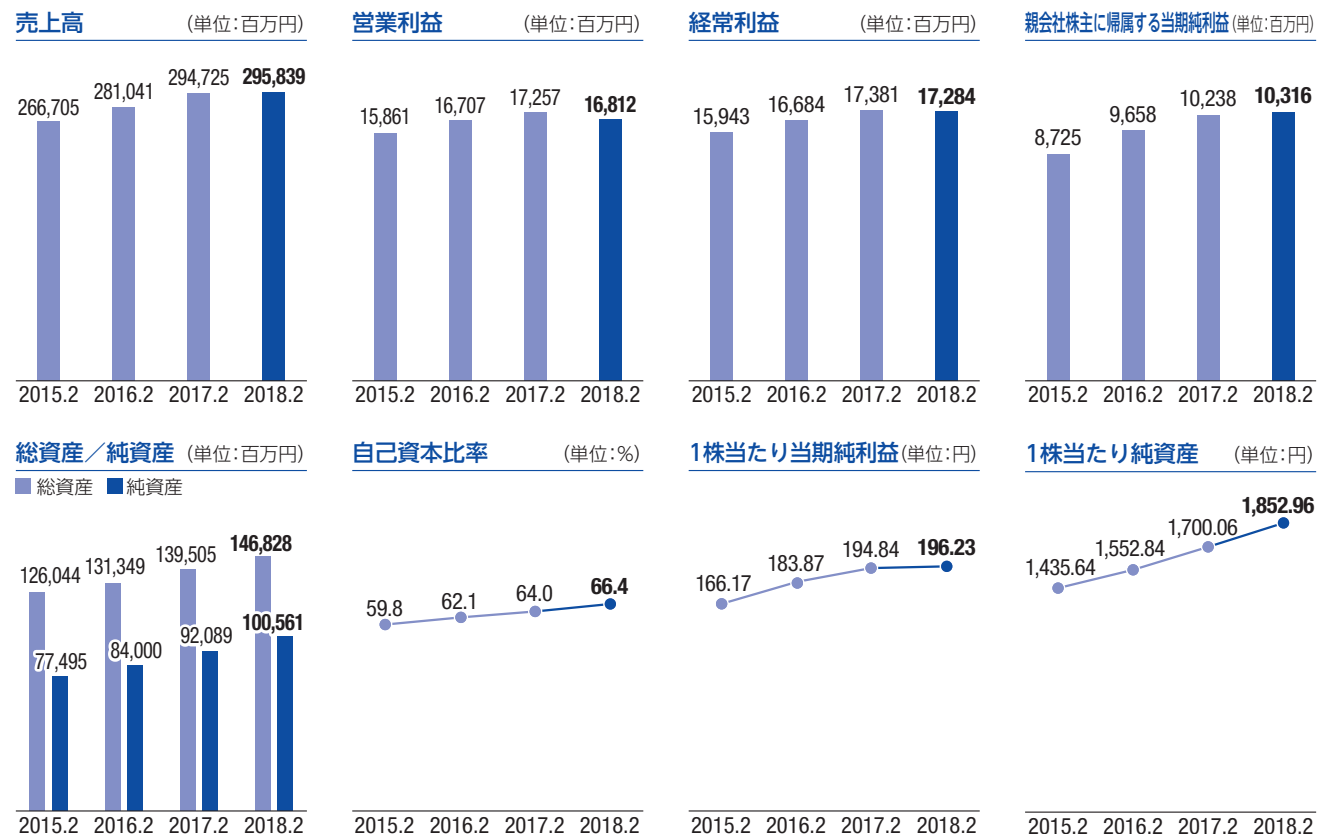
「ベンチャースピリット」と「現場主義」を全社員で共有しながら、更なる成長を果たすことで株主の皆さまからのご期待に応えていきたいと考えています。

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

連結財務ハイライト

■ 決算のポイント

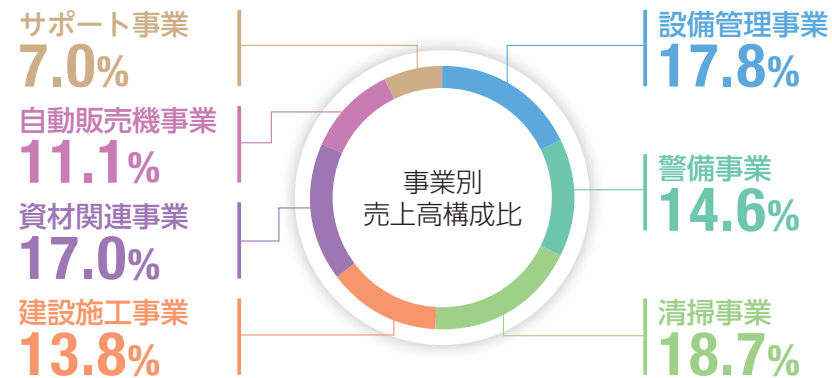
- 
新規顧客の拡大、国内外子会社の成長により、増収。
- 
セグメント別売上高では、4事業で増収。建設施工事業、資材関連事業、自販機事業で減収。
建設施工事業は前期大口顧客による看板入替工事などの反動減。
- 
セグメント別利益では、5事業で増益。警備事業、自販機事業が減益。
建設施工事業は収益性の高い店舗設計・内装工事に注力すると共に原価改善により、減収増益。警備事業は外注費増加が影響。自販機事業は収益力の高い新型自販機への入替実施（先行投資）に伴う減価償却費、通信費などの増加が影響。




詳細は当社Webサイト「IR情報」をご覧ください。 [イオンデライト](#)



SEGMENT INFORMATION

セグメント別概況



設備管理



売上高	526億69百万円 (対前期比 104.2% )
セグメント利益	46億44百万円 (対前期比 106.8% )

●新規受託に加え、お客さまのコンプライアンス対応を支援する防火設備定期検査やフロン管理代行サービスの受託を拡大。


警備





売上高	432億90百万円 (対前期比 105.4% )
セグメント利益	28億57百万円 (対前期比 91.9% )

●安全カメラの受託を推進すると共に省人化を目的に出入管理や巡回警備等のシステム化を推進。


清掃





売上高	552億97百万円 (対前期比 103.6% )
セグメント利益	62億28百万円 (対前期比 103.6% )

●品質・生産性向上を目的に施設毎の特性を踏まえた新たな清掃基準の策定を推進。

建設施工



売上高	408億97百万円 (対前期比 89.3% )
セグメント利益	33億05百万円 (対前期比 103.0% )

●ショッピングセンターのテナント入替に伴うリニューアル工事の提案活動を積極化。

資材関連



売上高	502億65百万円 (対前期比 99.1% )
セグメント利益	28億68百万円 (対前期比 103.4% )

●イオンのプライベートブランド「トップバリュ」の包装包材の受託拡大。

自動販売機



売上高	328億34百万円 (対前期比 99.9% )
セグメント利益	21億05百万円 (対前期比 74.9% )

●デジタルサイネージ型自販機での販促活動の実施に加え、次世代型自販機の設定拡大を推進。

サポート



売上高	205億84百万円 (対前期比 101.4% )
セグメント利益	25億18百万円 (対前期比 106.0% )

●イオンコンパス(株)など連結子会社が寄与。

※セグメント利益…セグメント別に内部取引、全社費用(セグメントに特定されない本社共通費)を除外して算出したセグメント毎の営業利益

スマートFMで ファシリティマネジメントを変革

テクノロジーの活用でFMの省人化／無人化に加え、新たな付加価値を創造

当社は、デジタル化の進展著しい中国において、テクノロジーを活用したファシリティマネジメント（以下、FM）の新しいモデル「スマートFM」を創造していきます。FMの省人化／無人化に加え、お客さまが保有する施設の更なる魅力向上に貢献する新たな付加価値の創出に取り組みます。

中国トップクラスのAI企業と 合併会社を設立

当社は2018年4月に、AI（人工知能）の基礎研究や応用開発といった分野に強みを持ち、研究開発から商品企画・開発、生産に至るまでの一貫したソリューションを提供する深蘭科技（上海）有限公司（以下、ディープブルーテクノロジー社）との共同出資により新会社「永旺永楽深蘭科技（上海）有限公司」を設立しました。

同社をR&Dセンターとして、当社が日本で培ってきたノウハウと先端のテクノロジーを融合させたFMの新しいモデル「スマートFM」を構築していきます。

FMの省人化／無人化で 生産性を大幅に向上

スマートFMでは、AIやIoTを活用した視覚監視制御システムや防犯システム、各種ロボットの活用により、施設管理業務の省人化や無人化を進め、大幅な生産性向上を図ります。また、お客さまが保有される施設のインテリジェント化を通じて、お客さまの利益最大化に貢献すると共に、施設を利用される方々の利便性を向上します。

施設のインテリジェント化に加え、 新たな購買体験を提供

例えば、商業施設では、AIカメラによってエリア毎に来館者の属性や動線傾向を捉え、データとして蓄積。それらビッグデータを分析しレポートすることで、お客さまのマーケティング活動を支援します。また、ご来館のお客さまに対しては、スマートフォンを介した円滑な駐車誘導やAIカートによる自動決済により購買時間を短縮し、お買い物に伴うストレスの軽減を目指します。さらには、自動で見込み客のもとに走行し、飲料を販売するAIカスタマーロボット、AR（仮想現実）技術を活用した着衣しなくても試着体験ができるAR試着室などにより、これまでにない購買体験の提供を図ります。

テクノロジーの活用で 「人手不足」を解消

現在、国内同様、中国においても人手不足が深刻化しつつあり、FMの効率化や自動化へのニーズが高まっています。当社はテクノロジーの活用により、日本や中国が直面し、アジアが内包する「人手不足」という課題を解決していきたいと考えています。その一環として、「スマートFM」の構築に取り組み、まずは中国での展開を図ります。

将来的には、「スマートFM」を中国に加えて、日本、アセアン各国へと展開していくことで、アジアで有数の技術力、ブランド力を誇るFM企業を目指してまいります。



AI研究における中国トップクラスの技術者集団 「ディープブルーテクノロジー社」の強み

- 上海市から人工知能研究において唯一の科学院（アカデミー）認定
- 従業員数260名のうち、50名以上がAIやロボット工学などの博士号及び博士研究員資格を所有
- 世界最先端レベルのディープラーニング、生体認証決済といった技術によって「Take Go」という無人リテールシステムを開発



無人リテールシステム



AIカスタマーロボット

脱炭素社会の実現に向けて

ブロックチェーン技術を活用した
再生可能エネルギーの実証事業を開始

「環境価値の創造」を経営理念に掲げる当社にとって、環境負荷低減は重要なテーマです。当社は脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーの普及を目指し、当社が出資するデジタルグリッド株式会社の技術を活用した実証事業を4月より開始します。

当社は、環境省による「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」^{*1}および「平成30年度ブロックチェーン技術を活用した再エネCO₂削減価値創出モデル事業」^{*2}に参加します。

本実証事業では、分散型再生可能エネルギーの効率的な利用や再エネCO₂削減価値取引・電力取引^{*3}に関する検証を進めます。2018年度はイオングループ35店舗、2020年度までに約1,000店舗に専用機器を設置し、2019年度に完成予定の電力を識別して取引するプラットフォーム上で、エネルギーの管理・小売を行ってまいります。

新たな技術の採用により、再生可能エネルギーに適正な価値をつけ、イオン各社・一般家庭の余剰電力、再エネ発電事業者等のグリーンエネルギーを、企業や各家庭に提供してまいります。

当社は、再生可能エネルギーの利活用をはじめ、施設の電力消費量をリアルタイムにモニタリングし、節電や省エネ、電力コストの削減を通じて、持続可能なエネルギー社会の実現に貢献してまいります。

- ※1 「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」
期間：2017年4月～2020年3月
- ※2 「平成30年度ブロックチェーン技術を活用した再エネCO₂削減価値創出モデル事業」 期間：2018年4月～2021年3月
- ※3 ブロックチェーン技術を活用し、発電履歴を特定した再エネCO₂削減価値取引・電力取引



会社概要

社名	イオンディライト株式会社 (英語表記名:AEON DELIGHT CO., LTD.)
創業	1972年11月16日
資本金	32億38百万円

事業内容 IFM
(統合ファシリティマネジメント) 事業

従業員数 4,034名 グループ合計13,430名

本社所在地 【大阪本社】
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-3-2
南船場ハートビル
【東京本社】
〒104-0044 東京都中央区明石町8-1
聖路加タワー8F

取締役および監査役(2018年5月18日現在)

取締役会長	中山 一平
代表取締役社長	濱田 和成
取締役	山里 信夫
取締役	冢志 二郎
取締役	古川 幸生
取締役	定岡 博規
取締役	四方 基之
取締役	水戸 秀幸
取締役(社外)(独立役員)	佐藤 博之
取締役(社外)(独立役員)	藤田 正明
取締役(社外)(独立役員)	本保 芳明
常勤監査役(社外)	森橋 秀伸
監査役	津末 浩治
監査役(社外)(独立役員)	高橋 司
監査役	河邊 有二

株式の状況

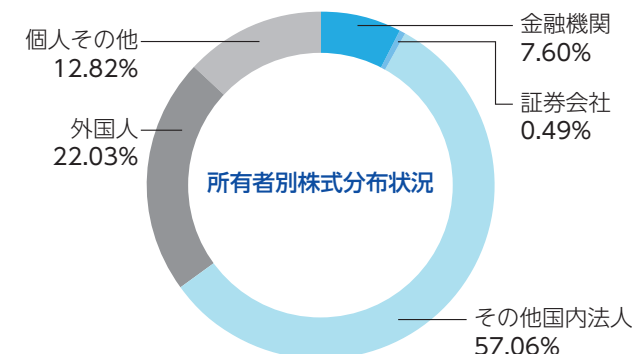
発行可能株式総数	86,400,000株
発行済株式総数	54,169,633株
株主数	18,172名

大株主の状況(千株未満切り捨て) 所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数(千株)	所有比率(%)
1	イオンリテール株式会社	16,558	30.57
2	イオン株式会社	6,103	11.27
3	リフォームスタジオ株式会社	3,994	7.37
4	ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	2,209	4.08
5	オリジン東秀株式会社	1,854	3.42
6	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,003	1.85
7	イオンディライト取引先持株会	987	1.82
8	イオン琉球株式会社	855	1.58
9	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	688	1.27
10	ステートストリートバンクアンドトラスト クライアントオムコ(スアカウントオムセゾー505002)	606	1.12

(注) 上記の所有株式数のほかに、当社は自己株式1,590千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合2.94%)を所有しております。

所有者別株式分布状況

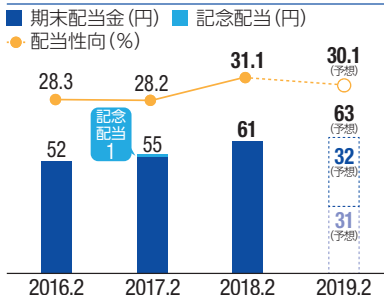


株主さまインフォメーション

当期の年間配当金は前期よりも
6円増配し、1株当たり61円
とさせていただきます。

引き続き安定的な配当を目指し、連結配当性向30%を基準とする株主配当を実施してまいります。2019年2月期は、業績予想の達成を前提とし、中間配当31円、期末配当32円の年間配当63円を予定しております。当期より2円の増配となる14期連続の増配を目指してまいります。

1株当たり配当金の推移



株主優待制度のご案内

2月末日の株主さまにつきまして、その保有株式数に応じて優待口数の優待品を贈呈いたします。

- 1 イオントップバリュ2,500円相当の商品
- 2 イオンギフトカード2,000円分
- 3 ハウスクリーニング割引券(2,500円割引)

ご優待株式数/持株数	100株以上	1,000株以上	5,000株以上	10,000株以上
優待口数	1口	2口	3口	4口

1 イオントップバリュ 2,500円相当の商品

どちらかをお選びいただけます。

トップバリュ商品A (フェアトレード)

グアテマラブレンド
コーヒー6袋



トップバリュ商品B (セレクト)

タスマニアビーフカレー
10個



2 イオンギフトカード 2,000円分

全国のイオングループ各
店をご利用いただけます。
(一部ご利用いただけない
店舗もあります)



3 ハウスクリーニング割引券 (2,500円割引)

ご家庭ではできない「プロのお掃除サービス」を2,500円
割引きでご利用いただけます。

イオンディライト株主さまご優待事務局
フリーダイヤル 0120-882-658

※組み合わせは自由です。ご優待品は、7月中旬頃より順次発送させていただきます。

株主メモ

事業年度 3月1日から翌年2月末日

基準日 2月末日
(そのほか必要がある場合は
あらかじめ公告いたします。)

定時株主総会 5月

単元株式数 100株

権利確定日 期末配当 毎年2月末日
中間配当 毎年8月31日

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

お取扱窓口 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や
買取請求等株主さまの各種お手続きは、原則と
して口座を開設されている証券会社等経由で行
なしていただくこととなります。ご利用の証券
会社等へご連絡をお願いいたします。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別
口座の場合)、下記のお取扱店にてお取扱い
いたします。
なお、支払明細の発行に関するお手続きにつ
きましては、みずほ信託銀行の下記連絡先
にお問合せください。

お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店 みずほ証券
本店、全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
でもお取扱いいたします。
※カスタマープラザではお取扱できません
でご了承ください。
みずほ信託銀行
本店および全国各支店
※トラストラウンジではお取扱できません
でご了承ください。

未払配当金の
お支払 みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次のみとなります)
※ゆうちょ銀行に配当金の振り込みができる
ようになりました。



木を植えています

私たちはイオンです

地球にやさしいエコペーパーを使用しております。

ホームページ上で公告・各種資料がダウンロードできます。

<http://www.aeondelight.co.jp/ir/>